

2026 年度

海洋に関わる多様な人材育成推進共同利用拠点 共同利用公募要領

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター（以下、センター）は、2026 年度より第四期の教育関係共同利用拠点到に認定されました。第四期「海洋に関わる多様な人材育成推進共同利用拠点」では、センターをより多くの機関の方々に有効に利用していただくため、共同利用教育活動を募集いたします。本公募によって、次年度の利用計画を早い段階で把握・調整し、円滑かつ有効なセンター利用を目指しておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。本公募は、申請校（機関）の単位を伴う共同利用申請を優先いたします。

本公募終了後も、引き続き通常の利用申請は随時受け付けていきますが、**本公募申請を優先的に取り扱う**ため、日程等はご希望に添えない場合があります。特に、夏季（7 月後半～9 月末）は混雑が予想されますので、現時点で 2026 年度にセンターを利用することが決定している場合は、本公募に申請されることをお勧めいたします。

本公募は主に以下の 3 項目について、教育活動支援を行います。また、これ以外の教育活動の提案も受け付け、活動内容に応じた支援を提供しますので、随時ご相談ください。

共同利用教育活動

① 臨海実習・授業等

大学における臨海実習、授業の一環として行う野外活動等の教育活動（実習授業の中の一部でも可能）です。センター施設、設備の提供に加え、ご相談に応じてセンター教員による指導を提供することも可能です。

※ 毎年の拠点実績報告書で他大学利用に関してシラバスのコピー添付が求められるようになったため、実習利用の場合はシラバスへのセンター利用の明記についてご協力をお願いいたします「例：本実習については、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターを利用する」。また、当センターの教員が実習を担当する場合についてもシラバスへの明記にご協力をお願いいたします「例：本実習については、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターの（教員名）が担当する」。

② 卒業論文・修士・博士論文作成のための研究等

指導教員が学生を引率しての利用および学生のみでの利用、ともに受け付けます。いずれの場合も指導教員による申請が必要です。

※ センターを利用して実施された研究活動等について、論文等が出版される際の謝辞には「例：東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターのスタッフメンバー」などではなく、研究に協力した技術職員を含むセンター教職員名の明記にご協力をお願いいたします「例：東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターの（教職員名）」。

③ セミナー、研究集会等

申請方法は②と同様です。

○技術支援および乗船支援の提供について

センターでは、学生実習や研究等に対する教育研究支援として、採集やサンプル処理などの技術支援および船舶うとう III（定員 12 名）を利用した乗船支援を実施しています。実習や研究等での技術・乗船支援をご希望の場合は、センター教職員に相談の上、申請書の「3. 共同利用の内容、③その他付記する事項」欄に、希望する支援内容を具体的にご記入ください。

注) 昨今の光熱水料費・燃料費の高騰に伴い、2026年度から実習室および会議室利用のための光熱水料費と船舶燃料費を利用者負担とすることで調整しておりますが、具体的な料金については検討中です。一方で、宿泊棟利用については、宿泊費は引き続きセンター負担とし、食事提供時の食事提供費(食事関連賄い料を含む)とクリーニング代のみ負担していただく予定です。食事については、2023年度より原材料費の高騰に伴い、食事提供費(食事関連賄い料を含む)の値上げをしておりますので、引き続きご了承くださいませようお願いいたします。また、センター利用時の機器および消耗品についてはできる限り提供をいたします。機器や消耗品を希望される方は、申請書の「3. 共同利用の内容、③その他付記する事項」欄に、希望する品目の内訳を具体的にご記入ください。

共同利用申請の手続き

(1) 提出書類

申請書(様式1)に必要な事項を記入し、メールに電子ファイルを添付してお送りください。Fax または郵送でも構いません。

(2) 申請書提出期限と採択結果発表

申請書の提出締切日は、**2025年12月15日(月)正午**といたします(Fax、郵送の場合も同様とします)。

申請書は、2026年1月のセンター共同利用協議会にて審査します。採択結果は、**2026年1月末**にメール(あるいはFax、郵送)にてお知らせする予定です。

(3) 提出先および問い合わせ先

E-mail: asamushi@grp.tohoku.ac.jp

〒039-3501 青森県青森市大字浅虫字坂本9番地

東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター・事務室

TEL: 017-752-3388

FAX: 017-752-2765

メールにて提出される場合、件名と申請書ファイル名を「**2026年度公募利用申請(大学名・利用代表者氏名(複数件申請の場合は通し番号を振ってください))**」とし、Fax の場合はメールの場合と同様の件名とし、郵送の場合は「**2026年度公募利用申請書在中**」と記載してください。

(4) 報告書の提出

申請課題が採択された利用代表者は、教育活動終了後、2027年3月31日までに報告書(様式2)の提出が必要となります。共同利用の成果を何らかの形で公表する場合には「海洋に関わる多様な人材育成推進共同利用拠点」を利用した旨を明記し、当該資料の提出をお願いいたします。

(5) 参考：施設所属常駐教員の研究内容および共同利用施設・設備

教員	研究内容
熊野 岳 (教授)	海産無脊椎動物の胚発生学
美濃川 拓哉 (准教授)	海産無脊椎動物の進化発生学
岩崎 藍子 (助教)	海産底生生物の個体群・群集生態学
森田 俊平 (助教)	生殖生物学
福森 啓晶 (助教)	軟体動物の系統分類学

利用可能デジタルコンテンツ

実習室での実習生の密集の回避、事前・事後学習を目的に、センターではデジタルコンテンツ（動画資料など）を用意しております。デジタルコンテンツについては、センター教員にお問い合わせください。

ダイジェスト動画 URL : <http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/textbooks.html>

本館（研究教育棟）

学生実習室：通常 32 名（最大 40 名）

実習室設備：淡水・海水流し、生海水、ろ過海水、インキュベーター、冷凍冷蔵庫、ビデオプロジェクター、スクリーン

講義兼会議室：通常 24 名、ビデオプロジェクター、スクリーン

図書室：生物図鑑等、閲覧および資料整理用机

潜水準備室：利用には免許およびセンター長の許可が必要（必要機材は各自準備すること）

工作室：作業台、旋盤、グラインダー、電動ドリル等

船舶：うとう III（9.32 m、300 馬力、定員 12 名）

機器類

生物顕微鏡：Nikon E200（暗視野スライダ付）27 台、Olympus 正立顕微鏡 4 台（BX41・CX31）、その他、倒立顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、微分干涉顕微鏡など

実体顕微鏡：Olympus SZ61（透過＋落射照明）26 台、Olympus VM（落射照明）19 台、Leica S6E（透過＋落射照明）1 台、実体顕微鏡用ケーラー照明装置 20 台

分析・採集機器等：qPCR 装置、卓上遠心機、高速冷却遠心機、野外採集観察用機器一式（ドレッジ、水中箱メガネ）、実習用タブレット端末 17 台
その他の機器についてはご相談ください

生物飼育施設

水槽室：生海水、コンクリート製 10 トン掘り込み水槽 1、コンクリート製 5 トン掘り込み水槽 2、FRP 水槽 6

海水供給設備：ポンプ室、海水槽

宿泊施設

宿泊定員（洋室 4、和室 2、バリアフリー室 1）：定員 40 名

食堂：定員 38 名

その他の設備：シャワー室（6 人用 1 室）・浴室（4 人用 1 室）、トイレ、バリアフリートイレ、洗面所、洗濯機、乾燥機

他に長期滞在者用宿泊棟（洋室 2、和室 1）

インターネット

本館、学生用宿舎（無線 LAN でのネット接続が可能）

URL: <http://www.biology.tohoku.ac.jp/lab-www/asamushi/index.html>

整理番号

2026年度 海洋に関わる多様な人材育成推進共同利用拠点

共同利用申請書

2025年 月 日

浅虫海洋生物学教育研究センター長 殿

代表者所属機関

職 名

氏 名

電 話 ・ F A X

メールアドレス

下記により海洋に関わる多様な人材育成推進共同利用拠点・共同利用を申請します。

記

1. 共同利用の詳細

教育プログラム名称	
新規・継続の別 *西暦でご記入ください	新規 継続 (年度から) (○を付してください)
共同実施項目 (注1)	①実習 ②卒論・修論・博論研究 ③研究集会 ④その他 () (○を付してください。公募要領「共同利用教育活動」参照、複数可) ① 実習の場合、シラバスへのセンター名称の明記 明記した (明記した場合は○を付してください、センター教員が実習を担当する場合はその旨をシラバスへ明記してください、公募要領「共同利用教育活動」参照)
単位の有無	単位有り 単位無し (○を付してください)
センター教員の指導 協力 (注2)	希望する 希望しない (どちらかに○を付し、協力を依頼する教員が決まっている場合は下の氏名リストにも○をお願いします) 熊野 美濃川 岩崎 森田 福森
実施期間 (注3) *西暦でご記入ください	第1希望: ___年___月___日 (___曜日) から ___年___月___日 (___曜日) 第2希望: ___年___月___日 (___曜日) から ___年___月___日 (___曜日) 第3希望: ___年___月___日 (___曜日) から ___年___月___日 (___曜日)
利用予定者数 (注3、4)	教員 ___名、学生 ___名、 他 (TA等) ___名、合計 ___名

(注1) 実習利用の場合、シラバスへセンター利用の明記をお願いいたします。また、当センターの教員が実習を担当する場合についてもシラバスへの明記にご協力をお願いいたします。

(注2) 協力を依頼したい教員がいましたら、事前にご連絡をお願いします。

(注3) 多人数による利用申請が重複する場合は日程調整をお願いすることがあります。

申請書には利用を希望する日時と、利用者のおおよその人数を必ずお書きください。

(注4) 採択後の利用手続き時に、利用者名、性別等、詳細な情報をご連絡いただきます。

3. 共同利用の内容（できるだけ具体的かつ簡潔に記入してください）

①共同利用の目的および期待される教育効果

②同利用の計画・方法

（教育目的を達成するための計画、方法、および共同利用を行う必要性等）

③ その他付記する事項（実習消耗品、分析機器類の利用、生物研究材料の供給やサンプル処理などの技術支援、乗船への支援などの希望がありましたらご記入ください）